



千葉労働者

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222) 7207 番

95.7.13 No. 4222

8.15 労働者市民の集いに起ろう!

歴史の転換点となる八・一五

労働者の視点から捉えなおそう

「戦後五〇年を問う八・一五労働者市民の集い」が、八月五日、一時より、東京・杉並公会堂において開催される。

この集いは、戦後五〇年という歴史の転換点にあたり、日本国家の戦争責任を明らかにし、二度と侵略戦争を許さないことを誓うものだ。

今日の情勢下において、労働者・市民が不戦の決意を示す、この闘いの重要性は決定的なものがある。

この間、何度も日刊紙上でも取り上げてきましたが、九五年は、敗戦から五〇年、ヒロシマ・ナガサキ五〇年、沖縄戦五〇年目にあたる。

「国会決議」を徹底糾弾する!

われわれはこの戦後五〇年という意味を、労働者の視点から捉えなおさなければならぬ。

村山政権は、敗戦の日である八月一五日に向かって、「戦後五〇年の国会決議」を衆議院で強行採決した。この「国会決議」には、「不戦」の決意も、「謝罪」も、「お詫び」の言葉もなく、さらに元従軍慰安婦とされた人々の訴えを踏み躪って、「女性のためのアジア平和友好基金」＝「民間基金」運動によって、日本の戦争責任を明確にする「ことなく、いままたアジアへとその触手を延ばそうとしている。

侵略戦争へ向かう危険な動き!

一方、自民党、新進党の国会議員らは「不戦決議」など必要ない。「日韓併合は円満に行なわれた」等々、露骨な戦争責任の居直りと、「アジア共生の会」などに代表される、新たな「大東亜共栄圏」＝侵略賛美の動きを進めている。またこの過程を通して天皇は、広島・長崎の被爆地や沖縄に「慰霊の旅」を行なうと発表した。

ゆえに今年の八月一五日は、再び侵略戦争を許すのか否か、日本とアジアの今後を左右する重大な日となった。

新たな潮流をさらに躍進させる

全国的規模の労働者市民の集い

この「八・一五労働者市民の集い」は、東京のみでなく、大阪、仙台(八月一三日)においても行なわれるなど、全国的運動として取り組まれる。

その闘いと運動は、①、日本政府に侵略戦争の国家責任を認めさせ、二度と侵略戦争を行わない国会決議を求める立場から、「戦後五〇年国会決議」を徹底弾劾し、その撤回を求め、軍隊慰安婦をはじめ戦争で犠牲になった人々にたいして誠実な謝罪と国家賠償・個人補償を行なうことを要求する。
②、憲法発布五〇年にむかって憲法改悪を阻止する広範な陣形をつくり、国連安保理入りや核武装の動きなど、再び侵略戦争に向かう危険な動きに反対す

る、新たな反戦・反核闘争、改憲阻止闘争を大きくつくり出ししていく。

③、そしてこの闘いを、各界各層で反戦・平和の運動など、さまざまな運動に取り組んできた人々、さらに広く労働者・市民の結集をはかる共同の闘いとして運動を進めていく。

「阪神大震災」や、オウム真理教事件などを契機にして開始された、「危機管理体制」の強化＝警察国家化の動き、そして今日の「戦後五〇年」攻撃の激化に対して、われわれは「全国にはばたこう」路線に基づく、

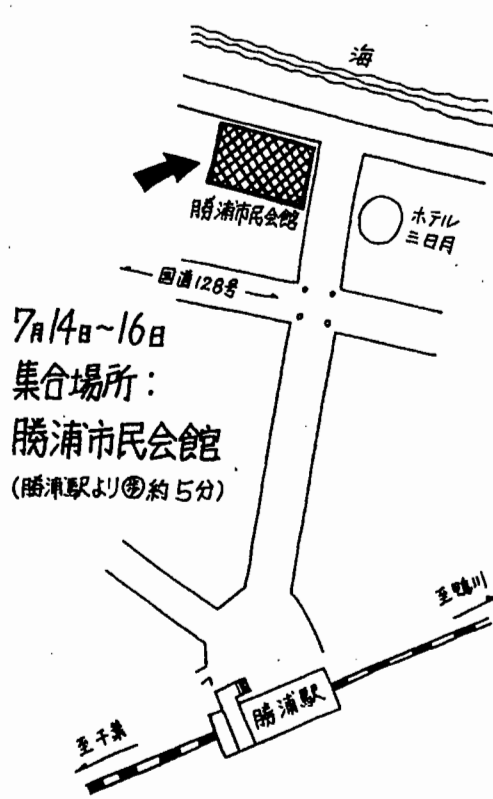
新たな潮流運動をさらに押し広げよう!

新たな反戦闘争の主体となろう

全組合員は、真の反戦・平和の闘いに起とう!八・六ヒロシマ・八・九ナガサキ被爆五〇年をめぐる運動と連帯し、この「戦後五〇年を問う八・一五労働者市民の集い」を新たな反戦闘争をつくらせていく、その出発点の闘いとして総決起しようではないか!

八・一五闘争に全力で結集しよう!

現在一万一二千名 全市民の署名を



7月14日~16日
集合場所:
勝浦市民会館
(勝浦駅より約5分)

【集合】 各日とも一〇時、一三時が基本。
(この時間以外でも構いません)
勝浦市民会館 【地図参照】